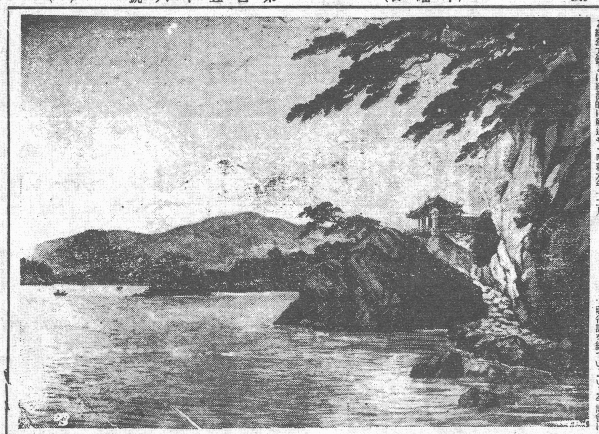
京都帝國大學新聞
昭和七年一月二十一日　京都帝國大學新聞　（木曜日）　第百五十六號　（一）
（月二回第二三種郵便物認可）

物價高を尻目に 學生食堂—頑張る

四月迄は現狀の儘



醫農兩學部にも 食堂のブランチ

設置を望む學生一同から 新城總長に嘆願

偉蹟を殘して講壇を退く

停年五教授……［1］

濱口雄幸氏を思はせる 梵文學の榊亮三郎博士

一箇年繼續で 耳鼻科の改築案

愈今議會に提出さる

混凝土樋落し 實驗を近々開始

この成果は建築材料研究上に 重要資料を提供せん

日本のシンボル 「富士山」を

高さ二尺の刺繍こし ドレスデン大學へ

舊臘以來すでに 五十餘名を推薦

……學生課の就職運動

擴大した相談事業

各方面の支持により 學年末も事業を繼續する 京大セツルメント

產婦人科の 用語統一

七月迄に完成 目下中央衛生會で研究中

「この三つのもの」

民間の委託を受けて

大學の歌 が欲しい

奉天から

濱田耕作教授 琉球から歸る

第三回發 掘着手期

風車

愈よ試驗近づく

經濟の二月廿日を皮切に

法學部

經濟學部

寫眞

卒業記念の寫眞撮影や、記念アルバムの寫眞撮影はお安く便利にお計らひいたします。

佐伯寫眞館
京都市上京區河原町通今出川上ル
電話上(2)八九八九番

經營と經濟

會學營經都京（振替大阪五八八〇）

2月號

我等微笑のゆくへ	小島昌太郎
貨幣價値の下落と事業經營の整理	小島昌太郎
カルテルと商業	谷口吉彥
企業財產の構成より見たる經濟都市分析	小宮敬郎
資用の波れに關する一つの覺書	須原元太郎
北大西洋航路を中心とする海運恐慌	佐波宣平
スエリイの五國經濟に於ける經濟學的關係	向井璋
經濟と統計比率	鐘川虎三
我が國生糸業に於けるカルテル的組織	小島昌太郎
我が國勞働者の近代的企業化傾向	山崎洋一
石綿の販賣に就いて	竹村一夫

紹介・記錄・統計・文獻

1回發行 毎月1日 Y.50 半年分 2回 90錢 1年分 4回 170錢（共郵稅）

東京市麹町區通 有斐閣書房 雄風館書房 振替東京 55685

國家試驗

高文・普文

第一回 定價金一圓二十錢

寫眞

卒業記念の寫眞撮影や、記念アルバムの寫眞撮影はお安く便利にお計らひいたします。

佐伯寫眞館
京都市上京區河原町通今出川上ル
電話上(2)八九八九番

都會と山の銀沙灘

時好和洋菓子

白井眼鏡店

京都帝國大學病院前
電話上(3)二七九番
大阪市東區平野町三丁目
電話本局一六三番

獨逸カール・ツアイス社
京都府販賣所

新春に際して皆樣の御健勝を、お慶び申上げます

新東京 西店 正宗ホール

江戸風 新東京 小鉢料理

電話近畿一八三五番

都會と山の銀沙灘

時好和洋菓子
御贈物御進物に最適

獨逸諸大學の「共濟施設」

黑正巖

一

獨逸の諸大學には古くより種々の學生團體があり、又學生の日常生活の爲めに、或は學生合宿所（ストウデンテンハウス）や食堂（メンザ）なるものがあつた。併しそれ等は何れも中世的なローマンチツクなものであつた。然るに世界大戰は獨逸の大學生活に異常なる變動を起した。即ち大戰中、大學敎育は殆ど停止の狀態となり、又有能なる學者、學生は戰場にて、或は倒れ、或は傷き、戰後の獨逸は學問研究の上から見て一大危機に瀕した。而して一面、獨逸國家の復興は最も急務であつて、之が爲めには先づ科學の興隆を計り、根本的立て直ほしを必要とした。然かも大學それ自身が右の如き狀態であるのみならず、國家の財政も、各個人の經濟にも全く窮乏して居たのであるから、事實上、有能の士といへども大學にて專念に科學的研究をなす事は出來なかつた。茲にて學生の間に、共助的な運動が自ら發生したのである。固よりこの學生の共助的運動に對しては、政治家も實業家も大に援助を與へ、又かつて獨逸に留學したことのある米人、或は獨逸から米國に移住して成功した人などが多額の義捐金を出して經濟的基礎を作つたのであるが、――この義捐金の受領の可否に就いては一時議論があつたが、結局受取つて使用したけれども、近時再び反對意見が大となり、目下は使用して居ないとかいふ――學生が大學の當局と共に自治的に經營し、後に示すが如く急速なる發展を遂げ、充分にその使命を果しつゝある。

私は數年來、不敏を以て本學共濟部の事務に當り、貧困なる學生は固より、一般學生諸君の福利增進の爲めに及ばず乍ら努力しつゝあつたが、今後資本主義經濟の行き詰るに從つて益々共濟施設の必要となるべきを感じ、最も進步せる組織を有する獨逸諸大學の共濟施設の視察を思ひ立ち昨夏急に出かけたのである。本稿はその視察報告ともいふべきものである。勿論紙面の都合上詳細に記述する事は出來ぬから極くあらましを示すにすぎない。

二

獨逸諸大學の共濟運動は大戰後の產物にすぎない。當初は各大學が別々にStudentenschaftなるものを組織した。それは恰も我國大學の學友會に類似するものであるが併し我國のそれと異り、運動部並に文化部は極めて範圍の限られたものであつて、我國の共濟部に當る所のものが最も重要なる地位を有する。之は色々の名稱が附せられ、Wirtschafts—und Wohlfahrtseinrichtungen, Fursorgeeinrichtungen, Wirtschaftskorper, Wirtschaftshilfe, Studentenwerkなどと呼ばれて居る。

然るにストウデンテンシヤフトはその委員を互選する事となつて居るので、選擧の度毎に政黨化して來た。即ち獨逸の學生は夫々一定の政黨的意見を有するため、夫々學生が自黨のものを選出せんとし、遂には學友會が恰も議會の縮圖のやうになり始終鬪爭がたえず、現に昨年夏には伯林大學にて共產黨の學生とナチの學生とが大衝突をなし、流血の慘劇を演じた程である。かゝる事情にある爲めストウデンテンシヤフトは一般の學生から見放され、結局共濟部のみが重要視せられ、學生の經濟的支持を受け今では學友會即共濟部の如く思はれるようになつて居る。

三

各大學の共濟部の事業は多少異つては居るが、その主なるものは大體次のようである

一、奬學資金給與
二、小金額一時的給與
三、無料賄
四、短期學資貸付
五、長期學資貸付
六、獨逸諸大學共濟部聯盟部貸付金庫事務取扱
七、獨逸國民の寄附金の取扱
八、疾病保險事務
九、旅費割引
十、國家及び都市當局と共同して學生の求職援助

更に經濟部は學生食堂、讀書室――之は主として各國の新聞雜誌の爲め――貸本部、映畫、演劇切符割引販賣、喫茶座談室、スキーヒユツテ、洗濯裁縫所等の施設を有する。

右の如く獨逸諸大學は極めて廣汎に亘つて學生の福利施設を講ずるが故に、その經費は頗る多額に上つて居る。例へば約一萬三千人の學生を有する伯林大學について見るに、補助金、奬勵金、無料賄丈けを合はせても六萬五千馬克に達して居る。全體の經費の程も察せられる。而して之等の經費は國家、支分國、地方團體よりの補助、大學校費よりの支出、職員の出捐、學生の納附、獨逸大學共濟部聯盟本部よりの補助、賣上金の利益等である。獨逸の學生は各學期の初にて授業料と共に各敎師へのオノラールを支拂ふ義務あるのみならず、別に學友會費として相當の金額を―大低一學期十五馬克乃至二十馬克―を納付しなければならぬ。その中にはクランケンカツセ、圖書閲覽料もふくまれてゐる。

四

各大學は組織的な共濟部を有し獨立の經營を行つて居るが、大學によつてその學生の數が著しく異り、伯林大學の如く一萬三千乃至一萬五千を有するものもあればハレ、エナ、ゲツテンゲンの如く二三千人にすぎぬものもある。從つて共濟部の經營には財政上種々の差が著しい。この缺點をため、既に各大學が一層大活動する爲めには總てが共同聯盟するの必要ありとし、遂に獨逸學生共濟聯盟なるものが組織され、本部をドレスデンに設置した。私は親しく本部を訪れ、この經營狀態を視察するの機を得、誠に羨望にたへなかつた。建物はドレスデン市の寄附にかゝり堂々たるものである。

聯盟の最も主要なる事業は學生貸付金庫である。之と並んで調査統制、福利等の諸部門があつて次へ〳〵と時と所とに適應する施設を試みて居る。貸付金庫は約千七百萬馬克の大金を運營して居るのであつて一大銀行である。個々人への貸付は勿論、各大學共濟部が施設をなすに資金の不足せる場合に貸付又は補助する。最近地方の各大學にかけるストウデンテンハウス、食堂などの建設資金はこゝから多分に出て居る。又結核の如き長期に亘る學生患者に對しては療養費を與へ、病院を特約して療養しうるようにして居る。之が出來て以來、結核患者の快癒率が非常に增加したといふ。更に聯盟本部は萬國學生共濟運動を唱へ、既に數年前ジユネーブにて國際會議を開き、各國共同してその有無を通じ互助しようと努めて居る。又特に北米合衆國とは緊密の關係を結び一定の年限を定めて貧困學生を米國に送りそこに勞働せしめて米國の大學に通學せしめ、或は儲けた金を以て獨逸に歸り、更に大學に入學せしむるの方法をも講じて居る。

五

右は獨逸大學共濟部の極めて大體にすぎぬが、その大學に於ける科學研究に資する所は實に大である。又その組織の完備せる事は感服の外ない。之れといふのも國民が擧つて大學共濟部に同情し理解し、精神的物質的に大なる援助を與へて居るからである。國家が如何にこの問題を重大視して居るかは、昨年三月八日に首相ブルユーニングは獨逸共濟部聯盟成立十周年に當り、その國家的必要なる事を力說し又その貢獻の大なりし事を稱揚するの大演說を試みた事によつても明かである。

今後、我國の經濟界は惡化するとも良化する事は斷じてない。而してそれらは益々有爲なる青年の向學を阻害する。我々は今日より之が對策を講究すべきである。日本國民の子弟はこの才幹に應じて研究しうるようにする事は我々大學職員の義務たるのみならず國民全般の義務であり、國家の最大關心事といふべきである。日本諸大學の學生諸君よ、團結せよ。（七、一一、一九）

明治初年民權運動の 現代的批判（下）

藤井甚太郎

明治初年民權論の種々は、以上に述べた通りであるが、これを危險なりとして、取締の爲めに發布せられた新聞紙條例、集會條例、讒謗律などは、頗る强なものであつた。就中官吏侮辱罪の如きは、侮辱の程度が法文に明示せられて居ない爲めに、當の官吏が侮辱を受けたと思へば、罪が構成せらるるので、警官を相手に何か口論して居る時、仲裁の意味で、第三者が口を入れて、此罪に問はれた例もあつたし「一寸署まで」と云はれて、警官から惡口を云はれ、憤慨して

口論 した爲め、此の罪に落ちた人もあつた。日頃辯論自慢の者達であつたゞけ、所謂自由黨の志士連中が、之の法律で惱やまされた。要するに民權論に就ては被治者も治者も共に今日以上の熱があつたやうである。差當り、當時の民權論は、今の社會運動と本質の相違あるは、云ふ迄もないが單に政治運動の形式の點からだけ見ると、昔の方が餘程强く過激な文句言葉も多く使用し、法も亦夫に相應して制定せられつゝあつた樣である。社會も亦社會で、今日の學生が、所謂左傾思想を持つて居るかも知れぬと云ふ疑ひからして、就職に難澁すると同じく明治十年頃も同樣、有司が民權家を懼れたのは、非常なものであつた。明治四年から十一年迄ハーバァート大學で法學を學んで歸朝した

新進 の學者金子堅太郎氏（今の樞密顧問官子爵）の如きも、共和政治の本場で學問した者と云ふので、仲々に就職が出來なかつたと、云つて居らるゝ。斯樣な有樣であつたから、明治二十年例の保安條例の如きが發布せられて、一日の中に、突如百名許りが、皇居三里外に退去を命ぜられた。其中には今の名士の方々も尠からずあつた。今で三里と云へば、東京府下であるが、交通の便少き當時にあつては、有意義な處分で、今日では上海邊にでも追放せらるゝ位の意味はあつた。今日立憲政治とか、憲政の常道とか、平氣で云つて何事もなく現代日本の政治が出來た樣に思つて居らるゝ方があるかも知れないが、今日に至る迄には、少からざる犧牲の

歷史 のあることを注意しなければならない。此の歷史の中には、日本にて行はるべき社會運動の原理が、數多く含まれて居る。又これを積極的に誘導して行く方法、又消極的に指導して邪道に入らぬやうに取締つて行く法則が、數多く暗示せられて居るのである。國體、風土、民性の外國と異なる我國にては外國流の丸寫し的方法は、時に之等の問題に關しては効果を擧ぐることが、不可能と云はねばならぬ。

今靜かに明治初年民權運動の左し盛なりし原因を、考ふると、學界としては、所謂「自由」「民權」に關する飜譯的著作物の流行、佛蘭西革命史の耽讀、等を擧げねばならぬ。又社會自體より見ると、明治維新後侍階級の地方的分散、これに伴つて政治意識の地方的普遍、外國政治運動の

模倣 德川時代專制政治の反動。政府に對する反抗心の旺盛若年の有司に對する輕侮。等を主なるものとする。又民權家夫自身より見れば、功名心、感激性、單純性、好奇心、痛快心等も手傳つて居ることは明かである。然し、此等の理論の中には、所謂マルキシズムと云ふやうな經濟理論の根據は、殆ど無く政治思想が主であつたと思ふ。勿論明治初年の百姓一揆、それには地租改正とか、上納米の減額などが呼ばれて居るがこれは百姓一揆であつて、民權運動とは多少相異あるものである、佐倉宗吾の話くらゐが、これに關聯を持つ位であつた。

この民權運動夫れ自身にしても果して徹底した認識の上に立つて居たかは、尙考察を要するのであつて、凡そ民權運動、國會開設、政黨政治と進むべきであるのは

自然 的の行程と思はるゝけれども、憲法政治の本尊である伊藤博文公すら、政黨政治の必然性を認められたのは、漸く明治卅一年と思ふ。夫れ迄は國會政治が所謂超然內閣下にて、行はれ得るものと云ふ確信を、變更せられなかつた。

今日は既に國會開設以來五十年に近くなつたが、人民の多く、特に有識者が、國會政治に倦み來つた傾向がある。國會に對する不信用、政黨に對する不滿が國內に滿ちつゝあるやうに思はれて來た。事の此處に至るには、政黨自身に其の禍根を持つて居る[illegible]れぬ。又立憲政治に對する[illegible]足らなかつたかも知れぬ。中橋文部大臣時代、予は五[illegible]食卓を大臣と共にした時、[illegible]想の

養成 をしなければ[illegible]と、力說せられたことを[illegible]最早十年近くにもなるか[illegible]而し此思想養成の普遍的[illegible]効を今以て認めない。これ[illegible]立憲思想が國史の上に立つ[illegible]かつたからかも知れぬ。

予は、政黨政治の盛なる[illegible]ると思つた二、三年前には、政黨が恰も源平二氏と同樣な氣持がした。此時に當つて、明治維新の意味を殆ど理解するに苦しんだ。王政復古の精神が沒却せられて、所謂維新志士の働きは無意義でないかと迄、憤慨した。「又武家の世となりにけり」と思つたことは、屢々あつた。今日又政黨否認の聲を聞くことが、頗る多い。こゝに至ると又

明治 初年民權運動が無意義になりはしないかと思はるゝ。抑も我國にて、政黨政治を那邊に迄進ましむべきか、其の極限の點は、必ずしも、西洋の政治論を以て、律することが、出來ない。これを純然たる西洋政治論で、論じつめると、武家政治の再興となる。此の同型の政治論は、實は西洋學を待たずして、日本の佐幕論で殆ど議論が盡きて居ると思ふ。然らば、王政復古、天子御親政論で進むと、そこに責任と云ふことが幾分なりとも、生じて參ると云ふ樣な、氣持を抱く者が、ないでもないと云ふ懸念がある。明治廿三年議會政治の將に開かれんとする時、一部の臣民の間には議會政治は國體に反すると論じた人がある。此論を駁する人の中には、責任論を意識して

議論 を進める人があつたかも知れぬ。先きに云つた自由黨の尊王論などは、此の種類のものである。問題が問題であるから、茲に其議論を詳述することを避けるが、要するに、明治初年民權論及それに關係ある政治論を、今以て繰り返して居るに過ぎなく、未解決のまゝに、時勢が進みつゝある。熊澤蕃山の集義和書に、天子の將軍を眞似さるゝと、將軍の天子を學ぶのは、共に無分別の甚だしきものと云つて、天子は和やかに上にましますべしと云つた、その「やはらか」が、帝國政治の要諦である。古澤滋の明治八年の論に、明治天皇は御英明であらせらるゝけれども、御年若くあらせらるゝによつて、御成人遊ばすまで當分

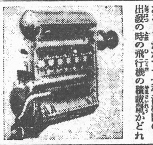
議院 を開いたらばと、云つて居る。これも一說と見て宜しい。要するに、自分は、明治維新時代から、明治廿三年位迄、日本にて論じ盡された政治論を、若き學徒が精讀せられて、然る後西洋政治學でこれを批判して、會得せられんことを切望する。言葉を省略して論述した爲め充分結論を明示することの出來なかつたのを殘念に思ふ

航空發動機の話

藤本武助

新聞部から又何か書けとの事なので、今回は少し航空發動機に就いて書いて見る。勿論この事に就ては、もつとえらい先生達が澤山居られるので、私の樣なものは大分氣が引けるわけだが今度の所はさう言ふ先生達にはしばらく目をふさいで頂いて、主として文科系統の方面の諸君に判つて頂くつもりで書くことにする。

現在飛行機に使つて居る發動機は、揮發油を燃料とする內燃機で、自動車の發動機と同じである。揮發油と空氣を混ぜると瓦斯狀になる。之れを五分の一とか六分の一に壓縮する。そしてそこへ電氣の火花を飛ばすと爆發する。もと〳〵揮發油は燃えやすいものである。怒りやすい人間を押へつけて頭をがんとなぐつた樣なもので、どかんと爆發する。この揮發油の慣性を利用するのである。この揮發油はどれ位必要かと言ふと、一體一馬力一時間について、最低二百二十瓦位である。今の型式では消費量を、之れ以上に減らす事は餘程困難の樣である。二百二十瓦として三百馬力の發動機を、五十時間まはすには、何噸（一噸は千瓩）の揮發油がいるかは算術の問題である。したがつて太平洋横斷の出發の時の飛行機の積載量がどれ程か、又離陸がどんなに難しいかは想像がつくと思ふ。



ユンカース六シリンダーディーゼルエンジン、一分間千七百回轉で七百二十馬力を發生し重量は八百瓩である。

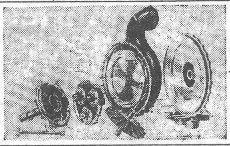
揮發油一瓩が、完全に燃えた時に發生する熱量を、大體一〇、〇〇〇カロリー（こゝで言ふ一カロリは、一瓩の水の溫度を攝氏一度だけ上げるに必要な熱量で、物理學で用ひる單位とは異つて居る）とすると、二百二十瓦では二、二〇〇カロリーである。一馬力一時間を熱量になほすと六三二カロリー。二、二〇〇カロリーの內、利用された熱量は六三二カロリーしたがつて發動機の熱効率は、約二十九パーセントとなる。何でもかでも一〇〇パーセントの今日、一寸言ひにくい程淋しい數字ではある。

發動機のシリンダーの中では、揮發油が燃えて高溫度になるので、冷やさないと燒け付いてしまう。冷やし方には水冷しと、空氣冷しの二種類がある。

水冷しと言ふのは、シリンダーの外側を水で冷やす式で、自動車の發動機は殆ど全部水冷しである。シリンダーで溫度の上つた水は、自動車の前にある蜂の巢の樣な所へ送られて、蜂の巢の壁にあたる狹いすき間を流れる間に、外の空氣で冷やされて、再びシリンダーへ送られる。この水は餘り冷えすぎても具合が惡いのでタクシーは冬になると、蜂の巢にボール紙やブリキ板を張りつけて走つて居る。飛行機でも大體あれと同じ樣なものがつけてある。兎に角水冷しは水がなければ回せない。ある田舍のおやぢさんに、自動車は水で走るのか、揮發で走るのかと聞かれて參つた事がある。

空氣冷やしではシリンダーの周圍に薄いひだを澤山つけて、風にふれる面積を大きくしてある。自動自轉車のは空氣冷やしの例で、飛行機ではあれを星型と言つて放射狀にならべて居る一直線にならべたのもある。

世界大戰の終つた頃の軍用機の發動機は、大體三百馬力位であつて殆んど水冷しで、空氣冷しは數種類でルノー・アンザニー等の外は發動機自身がプロペラーと一諸に回る式のもので、馬力もせいぜい百五十馬力位までゞあつた。その後長足の進步で、今日の型式の空氣冷しは、最初英國で先づ發達し、次いでアメリカで盛んになり現在では世界到る所盛んに作られる樣になり、五百馬力位までは殆ど空氣冷し式になつてしまつた。勿論空氣冷やしで、もつと大馬力なのもある。日本で設計された七百馬力のものなど運轉の具合がよく外國のどんな發動機にも負けない位であるさうである。



スーパーチヤージヤー部分品ロールスロイス發動機のものである

一體地面から離れて高空に行くにしたがつて、空氣が稀薄になつてくる。それにつれて發動機の發生する馬力も減少してくる。そのために飛行機は、ある高さまで昇ると馬力が不足で、それ以上昇れなくなつてしまう。手つ取り早く例へると呼吸困難と言ふ事になる。それで呼吸を樂にしてやるために、空氣を壓縮して吸はせてやると、元氣を出して地面と同じ馬力を發生してくれる。諸君何んといおらしいではないか。

壓縮する裝置をスーパーチヤーヂヤーと言つて居る。之れは放射狀に出た數枚の羽根のついた車で、之れを一分間に一萬回とか三萬回と言ふ高速度でまはして、空氣を壓縮するのである。之れをつけたために發動機の目方がふえるし、之れを運轉するのには大體五百馬力位の發動機につけるものだと三四十馬力もいる。何だか一寸考へると、損な樣だが、實際にはうまく行くのである。高空へ猛烈な勢ひで飛び上つて、一上一下の空中戰を展開する軍用機には是非必要なものである。最近ドイツ、デッサウのユンカースで作つた成層圈飛行用の飛行機は、操縱者と觀測者の室は密閉される樣になつて居つて、このスーパーチヤーヂヤーが取りつけてあるのは勿論の事である。

飛行機の發動機は今言つた樣に揮發油發動機であるが、內燃機關としては外にも型式がある。ディーゼル機關がそれで、この發動機は重油を燃やす樣になつて居る。揮發油發動機では揮發油と空氣の混合物を強く壓縮して置いて火花を飛ばす。強く壓縮する程効率がよいのであるが餘り強く壓縮すると勝手に爆發するので、運轉が滑かに行かない。所でディーゼルでは空氣だけを壓縮するから、三十氣壓やそこらに壓縮しても爆發する恐はない。そしてこんなに高い壓力まで壓縮すると、空氣の溫度がすつと昇つて、その中へ油を吹き込んだだけで自然に燃える。油をふき込むのに壓縮された空氣でふき込む方法や、又は油に三百氣壓とか四百氣壓と言ふ壓力をかけて吹き込む方法がある。飛行機用は大體後の方法によつて居る樣である。

ユンカースの成層圈飛行のための飛行機、ユンカース式の全金屬（ヂュラルミン）製である。發動機は八百馬力水冷し式である。

從來は飛行機用としては揮發油發動機が他の型式のものが追隨出來ぬ位に發達して居つたのであるが、もと〳〵ディーゼルは安くて容易に發火しない燃料で運轉出來るので、飛行機で恐ろしい火事をなくする事が出來る。その上効率がよい、一馬力一時間百六十瓦と言ふ樣な、よい成績が上つて居る位であるから、充分揮發油發動機と競爭出來る資格がある。それで數年來諸方で試作され、大分成功に近づいて來た。英國で航空船用のベアードモーア、それからサンビーム、獨逸ではユンカース、佛國ではクレルジエー、伊太利ではフイアツト、米國のパッカード等で、この內でもユンカースとパッカードは實際飛んで居る。日本にかても今製作の計畫がすゝめられて居る。成功すれば心强い次第である。

これで大ざつぱではあるが大體の話は濟んだつもりである。夫々の細かしい問題については又外の先生が書いて下さると思ふのでこの邊で私はひつ込む事にする

讀めば直ぐ活字になる 方法を考へる……田邊博士

「私は日本語はとても複雜で不便で非常に苦勞した、さうかといつて悲觀してゐてはどうも致し方がないので、何處か日本語のよい點を見付けたいと考へてゐる」と、名譽敎授田邊朔郎博士は音から直ちに印刷する方法について話される、日本字は英語と違つて音の數と文字の數とが同じであることから、五十音をすつかり音波で表はすことが出來る、良きアナウンサーを得て、マイクの前でアナウンスさへすれば、その音は直ちに電氣盤の音波に感應し、自働的にそれぞれの活字を拾ひ、印刷することが出來るやうの方法で、決して不可能ではないと思はれるといふのである、これは博士が學生のアルバイトとして、二十三年の歲月を費して、苦鬪やつと完成を見た「明治工業史」十卷壹々八千頁の著作の際に考へつかれたことである。これを見ても博士の研究心が、如何に細かく働いてゐるかゞうかゞはれる、この外その家を百石齋と云つて、百の蒐集家であり、又百齋は繪をかくときの雅號でもある（寫眞は大著「明治工業史」と田邊博士）

劈頭語錄

西本顯

天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず。國事多難の秋、固より全國の團結を必要とする。併し乍ら全國の團結を作るにはそれに先だつて先づ個々の小さな團結が必要であらう。大和民族は有事の日に團結せんとする意識が先驗的に潜在することは明かに民族的な强味であらうが更に左樣な無意識的な感情的一時的な團結と共に、一層之を力附けるものとして有意的な團結がその構成分子として根據として存在することが必要ではあるまいか。私は茲に私の考へる團結が如何なるものであるかを敍述しようと思ふ。

團結は其の種類の如何を問はず團體の構成員に非ざる第三者即ち團體外から之を見れば、構成員各自の間の結合であり、其の種類性質に應じて又構成員各自の團體內部に於ける地位に應じて、結合の關係に親疎の度があるであらう。之を眼を轉じて團體の構成員各自に注目して其の主觀的な立場を考へる時には、構成員相互間の結合は各構成員にとつては自己の擴張に外ならない。卽ち他人に於ける自己の反射である。自己以外に存する自己、他人に於ける自己、自己の擴大である。私の考へによれば自己の擴大と團體的結合とは同一物二義であり楯の兩面である。故に團體構成員各自が其の主觀的立場にかて誠實に自己の擴張をなすときには、其の性質の强弱其の範圍の大小に從つて、各自の構成する團體は其の質量を變化する。茲に於て團體の安定不安定は構成員各自の意思活動如何に依賴することとになる

斯く論じ來れば既は實權を支持して忠君愛國の常套を擬り、所謂[illegible]中正の國家論をなす者と考へられるであらうが、實は左樣ではない。私は此の劈頭語錄にかては社會的結合を自己のために如何に形成すべきかを述べんとするものである從つて國家國民と云ふやうな大きな社會を考慮に入れてゐるのではなく寧ろ社會的存在としての自己を如何にして進展せしむべきかの問題を取扱はうとするのである尤も修身齊家を先にすれば、其の結果として治國平天下の理想を實現し得るものであるから、私の述べやうとする所の事柄と私の述べやうと欲するかの如くに見ゆる所のものとの間には何等かの關係が存在することは否定出來ないであらう。故に從來說く所と將來進展する機會との間には何等理論上の飛躍はないはずである。

自分が或團體に加入したと云ふことは、其の加入の方法が誠實である限りにかて、自分自身を認めてくれる人が增加したことを意味する。卽ち自己の活動範圍が廣くなり、自己以外にかて描くことの出來る自己の像が大きくなつたことを意味する。換言すればそれだけ自己が擴大されたわけである。斯かる關係は有意的無意的に年齡と共に增加するであらう。勉學は斯る關係を作り出す機會であり交友趣味社交職業結婚依賴被依賴朋友親戚知己師弟主從は斯る關係を作り出す絕好の媒介者であり、同時に當該社會關係にかける自己にとつて最も有力なる關係をもつ構成員である。自己の擴大に役立つ社會的團體に自己を導入することは自己にとつては或は偶然に或は計劃的に可能である。凡そ社會的に自己を發展せしむることは其の根本は他人との接觸を有意義ならしめることである。換言すれば人と人との關係が重なり合つて社會的團體を造り出すのである。然らば人と人との結合關係は如何にして成立するか？又如何にして維持するか？更に如何に役立つか？未開の社會では出生成育が根本的な條件であり且つ動かすべからざる條件であつたらう。人が何の階級に何の地域に生れたか、如何なる生育を經たかと云ふことが其の人の社會的運命を決したであらう。斯る社會にかては各人は殆んど後天的に運命を開拓する機會はない。あたら有望の人物を生れが惡い育ちが卑しいと云ふことで葬り去つたとであらう。併し乍ら斯る社會は一方にかて文化社會に比較して大きな美點をもつてゐたとは爭はれない。各人は其の生息する社會が地域的に階級的に殆ど生涯を通じて不變なるがために、各人は相互に其の性格を知悉してゐる。故に個人が個人を隔着する處の策動の範圍は全く封鎖されてゐる。若し一時的に詐欺的行爲が効を奏しても必ずや近き將來に其の返酬を受けなければならないであらう所謂やり手と云ふ型の人には往往にして策士が多い。斯る策士が策動するには社會が複雜であり變化極りなき不確定の狀態にあることを必要とする。斯かる背德漢の存在を許さないのが單純なる社會の美點である。之に反して文化社會にかては階級や出生地は問題にならない。山家の猿も花のお江戶で芝居することが出來る。文化社會に於ては同時に各人は非常に複雜に何重かの社會的關係の中に生息する。斯かる社會にかて人と人との關係は多くの場合疑問的に定まり得る。或は單なる趣味の共通、或は性向の類似、感情の一致、時には同一の人に反感を懷くといふばかりの結合もあり得る。因より互の人格を信じ、互に德性を尊重し、互の力量を信賴する場合もあらう。又生存に缺くべからざる利益の相通と云ふ場合もあらう。而して人と人との結合が成立する以上、其の結合が社會と名づけられるや否やを問はず、次の瞬間にはお互の協力依賴被依賴の關係が生ずるであらう。

（以下第三面）

新刊紹介

◇プロレタリア科學研究（第三輯）本書にのせるもの、一般危機にかける日本主義―寺島一夫、第三期に於ける中國プロレタリア運動、李立三コースに關するコミンテルン執行委員會の討論―中國問題研究會、社會保險施設要求のための資料―仲田市藏の四編―プロレタリア科學研究所發行、定價八十錢

◇マルクス主義勞働者敎程（ドウンカー・ゴールドシユミツト、ウイツトフオーゲル編プロ科學研究所譯）敎程は經濟學の第六分冊で、餘剩價値分配の問題を取扱ひ、利潤に初まつて、その間、平均利潤率の低下及び商業資本等を經て、利子及利子附資本に終る―叢文閣版三十錢

◇現代史學大系第十五卷―史學名著解題―古代中世篇、及び近世篇の二部に分れ、前者は希臘より中世までを、後者は文藝復興期より史學の世紀までを取扱ひ西洋は千代田謙氏、日本は松井彥次郎氏、支那は松井等氏等が夫々擔當してゐる―共立社刊行

雜誌

◇法學第一卷第一號（東北帝大法學會編輯）石田文次郎氏の投資抵當の起源を初めとし、外二氏が執筆され、最後に判例研究會の手になる大審院の判決がのせてある―岩波書店發行定價五十錢

◇俳句の友創刊號―既成俳人、既成俳句雜誌とは全く異つた立場と方向から、新しい俳句の道に進まんとする人達の手に成る雜誌で、働く人達の「俳句の友」である事を唯一の目的としてゐる―其の社發行五錢

▲理想（一、二月號存在論）其社發行、定價六十錢▲受驗界（一月號）其の社發行、定價五十錢▲プロレタリア科學（一月號）其の社三十五錢▲長崎醫科大學々友會雜誌（同文藝部）▲鄕土科學（第十五號）刀江書院、定價三十五錢▲科學（一月號）岩波書店、三十五錢

▲都市問題（第十四卷第一號・公益企業特輯）東京市政調査會、本號に限り二圓五十錢

經濟史研究

▼歷史的研究に於ける統計の利用……蜷川虎三
▼ゾムバルトの羅馬カンパニア研究……山口正太郎
▼德川時代に於る江戶大阪間の金銀貨對立に就て……松好貞夫
▼上杉氏の財政と鑛山……小葉田淳
▼フランス經濟史概要（八）……宮本又次
▼英國經濟史概要說（八）……竹中靖一
▼東海道吉田宿に於ける人馬繼立組織……大山敷太郎
▼松前蝦夷地場所請負制度考……白山友正
最近の經濟史學界

經濟史研究會へ入會希望の方は會費半額五圓五十錢を添へ經濟史研究會（京都市左京區田中門前町三五ノ二）宛御申込み下さい

二月號 定價五十錢 東京丸の內昭和ビル 日本評論社

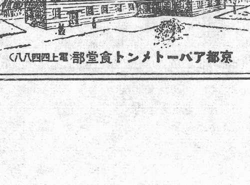
六階食堂に 即席料理部を

新設して毎日午後三時から、皆樣のお目の前で、早く、おいしく、おやすく

一、小鉢もの
一、握り壽司

を調進致します。

御試食下さいますやうお願ひします



京都アパートメント食堂部（電上四八八八）

日本農民史

柳田國男著 ◆四六判一九〇頁 ◆假綴美裝 定價九十錢 送料六錢

本邦鄕土史研究の貴重なる文獻

日本は世界に比類のない聚落の研究地で、緯度から言つても、地形から言つても學問で集め得るすべての地形をもつてゐる。而もこの狹い國土には溢るゝばかりの人間が住んでゐるので砂濱の上にも、高原の上にも又火山灰の上にも、あらゆる地形にあらゆる居住方法をとらねばならぬ日本なのである。そしてこの鄕土の學問は今我國の到る處に成長の最中である。此の時に當つて此學問の草分けであり、權威である柳田國男先生の文獻を學界に捧げることは喜びに堪へない。

東京・神田・聖橋通 刀江書院 振替東京七三一八番 電話神田三七一・三一八九（圖書目錄進呈）

法政論纂

京城帝大法文學會編 ◆菊判四八八頁 ◆價二圓五十錢（送料二十錢）

法の定立、適用、執行（清宮四郎）直接國民立法の一形態（鵜飼信成）朝鮮に於ける行政權及びその立法權並びに司法權との關係（松岡修太郎）委任統治地の主權の所在に關する研究（泉哲）賠償問題の史的考察（三宅鹿之助）キケロの國家論とアウグスツスの政體（船田享二）歐羅巴人の文獻による明治維新の原因（松本馨）

歐米に於ける 支那古鏡

梅原末治著 ◆四六倍判本文一六二 ◆小版一一六挿圖二七 定價八圓五十錢 送料三十三錢

支那の古鏡は極東諸國に於ける上代文化の發達を徵證するものである。著者は十數年來其の研究に沒頭し、最に歐米に留學するや彼地に流出する支那古代遺物の精査に著目し、兼て南露、西伯利亞の出土品に注意を及ぼした結果、より廣い見地に立つ古鏡觀を得て本書を編むに到つた。九十餘葉の玻璃版はそれぞれ興味ある作品にして同好者の觀賞に値すべく、また該資料に基く東西上代文化の交涉の一面乃至支那鏡起源の考察の如きは一つの新生面を開くものとして學界の注意を惹くであらう。（內容見本進呈）

明治維新と現代支那

文學博士三浦周行著 ◆四六判三六〇頁 ◆口繪四葉、綿布 定價一圓八十錢 送料十四錢

反日鬪爭に寧日なき中華民國の日本研究熱は、洵に熾烈なるものがある。殊に中國革命を以つて明治維新に比し、これよりその建國方策を汲み取らむとする熱意は吾人の想像以上である。故三浦博士は逝去の直前中國に遊び、主として日本文化史に關する蘊蓄を傾けて彼地青年學徒のために試みた講演と現代支那に對する觀察とを一卷として吾人に遺された。今や世界的關心の眞只中に在る若き支那を知らむとする者にとつて必讀の名著であらう。

「無い袖は振れぬ」

學友會は前年度豫算を踏襲か

役員會は二月五日

共濟部で時計商を指定

共濟部で今度新に時計商の指定を左記の如く決定し修繕及び販賣を取扱ふ

西山眼鏡時計店（市電東山線聖護院上る）▼中小路眼鏡時計店（市電銀閣寺線農大前）

郡場教授歸朝

目下郷里歸省中

昨夏以來、海外視察の爲、理學部植物學科、郡場教授は主として南洋、南米、中米方面に旅行中であつたが、此程見學を終つて歸朝、目下郷里に歸省中である

武道寒稽古

學生集會所北側へ

健康相談所移轉

來る廿五日から診療を開始

文學部論文出揃ふ

總數百九十六篇に現はれた傾向のさまぐ

カナダチームの來朝を迎へて

……三島主將は語る……

左翼學生の二つの行方

これ等のインテリは果して「傷ましき何」であらう

江木伊作

京都學生聯盟近郊驛傳競走

話題豊かに半歳

歐米の旅を語る

和田健雄教授歸朝談

相つぐ豫餞會

教練査閲

廿二日一時半から

立命館出身者會合

昨春成立した立命館出身本學在學者懇親會第二回會合は十一日夜大和大路きんなべで開催、來會者十六名、盛會裡に十時過散會した、後期幹事は法學部音川、醫學部石田兩君に決定

「マルクス主義批判」を墓前に

藤井博士建碑式

劈頭語録

第二面よりつゞく

廣告

◆名畫集中の壓倒陣　近日封切　期待を乞ふ！

フォックス超特作・日本字幕版　アン・ハーディング主演　女性に捧ぐ

フォックス社特作トーキー　スペンサー・トレーシー主演　爆笑世界行脚

M・G・M社超特作トーキー　W・S・ヴァン・ダイク監督　トレイダ・ホーン

M・G・M社超特作・日本版　グレタ・ガルボ主演　インスピレーション

フォックス超特作・日本版　サリー・アイラース主演　バッドガール

M・G・M社特作トーキー　ジョン・ギルバート主演　海行かば

西京極　キネマ倶樂部

洋服は　仕立最も親切　共濟部指定　帝大北門前　電上二六二七　有本

クスリ　熊野電停前　東山藥局　電上三一四〇

性病専門　Tripper, Syphilis, Schanker etc.　丸太町烏丸停留所西入北側二軒目（電上二一七七）　醫學博士　早川博　醫學博士　阿部正言　早川診療所　診察時間　午前及夜間、日祭午前中

洋服は　寺町通丸太町南入　京大共濟部指定　電上四六三番　ナガヤ

ネオ・アダムスミス

經濟原論？

白米一合五勺四錢十牛肉拾匁九錢十カレー粉其他四錢十燃料三錢十美人少女給のサービス＝￥0、10

之れが我がスマート・ランチのネオ、エコノミツクプリンシプルであります

この原理を知りたい學生諸君は是非一度

スマートランチのライスカレーを御試食下さい

尚ほ御遠慮なくコーヒー券を切り取つて御持參下さい

スマートランチ

京都寺町三條上ル

電話上4597

無料　コーヒー券　御一名様　スマートランチ（切り取り線）　（寄附大新聞）

新春所感

謹んで新年をおよろこび申上げます。さて、あけました昭和七年を輝きある一年たらしむるため、貴下は何を望まれますか、「年に寄する思ひ」を吾が大學新聞のため、お述べ下さいますやうお願ひいたします社會に――學界に――學園に或は學生に對し、今年は斯くありたしと思惟せらるゝことなど、特に結構に存じます京大新聞同人は、貴下の年頭所感をいただくことに、無上の光榮を感じつゝ、賀詞にそへて厚つかましくも、このことを懇願する次第であります。（右に對する諸家の回答前號の續きを到着順に）

黎明を……目指して
藤田德松

世界的不況、結婚難、失業難等に伴ふ婦人の著しき街頭進出は、吾等の家族制度を動搖せしめ、同時にカフエー、ダンスホール、私娼窟の發達となる、かゝる社會狀勢は、一般大衆をして享樂的な、またデカタンな自棄的氣持を多分に抱かせます、かゝる氣持を無くし希望ある生活の送れる日の來らんこと――これが私の昭和七年に寄する思ひです

クリチシズムの精神の皷吹
石橋湛山

世界も日本も非常な難局に行詰り――に當面して居ること、而して此の難局を打開すべき方策を、何人も持つて居ないと言ふこと（此の方策があれば難局ではない）之は誰もが痛感して居る事實である。私は此の際最も必要なのは、クリチシズムの精神であると思ふ、精しくはこゝに述べかねるが、私はCriticismの此精神さへ、總ての人が直にもつなら、難局打開の方策は、立所に之を發見するに難くはないと信ずる、今は所謂右派の思想家、實行家には勿論、所謂左派の思想家、實行家にも、此の精神が全く缺けて居る、一九三二年の仕事として私共は互に此の精神を涵養し、且つ世に此の精神を皷吹したいと祈願する

平和の建設をあやまるな
上田貞次郎

滿洲事變の結末がどうなるかは、まだ問題でありますが、恐らくは軍事的には大事に至らずして、我國のため有利に片付くのでせう、併しながら、その後に平和の建設があります滿洲といはず、國民生活の大局について、冷靜熟慮を要する時期と思ひます

速かに覺醒せよ
山木四郎

「年に寄する思ひ」……その柄ではありませんが（一）社會に對しては、覺醒すべき人々が、より速かに覺醒することを願ひ、また、するだらうと思ひます（二）學界に對しては、古色蒼然たる古ノートの學問が葬られて、現實をしつかりと把握し、現實を正しく指揮し得られる學問（その部門を問はず）が普及することを望み、またさうなるだらうと思ひます、特に文藝については、所謂文藝思想家のものとしての文藝學でなく、文藝科學者のものとしてのそれが、勢力を得ることを望み、かつ信じます、（三）學園學生に對しても、以上の二つが大體の答をしてゐると思ひます

夜間、巡回裁判所の開設を
柴田義彦

（一）本年こそは我國においても勞働裁判所創設の先驅として、夜間裁判所、巡回裁判所の開設を希望する、勞働關係の裁判が激增する我國現在の狀態において、被傭者階級に便宜であつて、且つ裁判の適正を期する上において、一層有效なる特別の勞働裁判所を、創設する事は我國現下の急務であると思ふ、倘右開設を機會として、裁判官をして實際に眞實の發見を基調として、生きた裁判をなさしめる樣にしたいと思ふ、現在では裁判官が訴訟法を運用してゐるのではなくして、訴訟法が裁判官を操つてゐるが如き奇觀がないではないのであつて、眞劍味が足らぬ樣な氣がしてならない（二）學界においては、我國學者の發表する貴重なる研究論文を、絕えず英、佛、獨語でなり世界の學者の前に發表する機關を、是非我國に創設して見たいと思ふ、斯かる尊い眞の國家事業に、基金を寄附する篤志家はないものか、大學部內にかゝる機關が出來て欲しいと思ふ（三）大學にかては、私は例によつて本年も法學部に勞働法講座の確立を希望して止まない

諸兄も私も――もつと勉強を
飯島正

新年お芽出たう存じます。時代おくれかも知れませんが、僕もそして學生の方々も、もつと勉强したいものだと思ひます、スポーツも社會的な運動も結構ですが、お祭りさわぎにならないやうにしたいと思ひます、といふ意味は決して社會に無關心であれといふことでなく――

正しき認識を
千葉龜雄

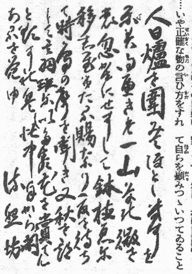
社會――特に政界に、時代の正しき認識を。學界に、眞理の歪曲されない認識を。學生に、目隱しされない社會の認識を。「認識不足」といふ、相當古いやうに思ふ成語が、この一二年また、おそろしく羽を伸して飛び廻り出したのは、抑も何の象徵か。

學界だけは世に阿らず
杉山元治郎

賀正、年末より旅行中で、いま三田尻町からこのはがきを書きます昭和七年の新しい幕が開かれたが財閥はドル買で數千萬圓を儲け、國民の生活苦を他所目に微笑し、犬養內閣はこれが提燈を持ち、軍部益々進展して、國內擧げてファッショ化せんとしてゐる、かうした社會世相の中で、學界だけは世におもねらず、眞に社會の進むべき道を指示して貰ひたいものである、詰らぬ理論鬪爭に沒頭せず、もつと民衆の實生活と觸れて行くべき道を指示して貰ひたい、社會運動もこの反動化の眞つ只中にあつて、少しも轉向することなく、敢然として無產階級解放のために戰うて貰ひたいものである、今こそ眞に生命がけで働くべき時であると信じてゐる、終りに青年學徒諸君の健在を祈る（七・一・五）

大學前の自動車のほこりを
殿井健治郎

それやあプロ特有のひがみ根性だよ……などと頭から冷殺だけはしないで下さい、一週間平均二三度の割で、大學へお邪魔（?）に上る筆者が、いつも、いつも、いつも惱まされるのは、氣むづかしい敎授氣質でもなければ、又四角張つたアカデミズムでもない、實はその自動車……いや正確な物の言ひ方をすれば、大學の正門前を可なりのスピードで、飛ばす自動車が、まきおこす濛々たるほこりなんです。これが名もなき圓タクなら、まだあきらめはつくでせう、だが加害者が大學の車であつた場合、筆者は限りなき義憤をそこに感じるのです、おそらく筆者同樣被害者であらう所の、學生諸氏も同じことだらうと思ひます、大學の車が、大學の學生にほこりをのませる、ホンにこのことでせう、金ピカをきた大學のショウファー諸君よ、せめて一條通りだけは「低位」でそろりとやつて下さい、でなければ撒水をうんとやるんだナア……



冷靜に――批判的に――
土田杏村

自己批判と自信とを學生諸君に希望します。勿論これは自誡語として自らを顧みつゝいつてゐることですが。どんな思想に對しても冷靜な批判的な目を向け、自分が心から納得出來なければ、それに堂々と反對する勇氣を持つこと。近頃は裸の殿樣に對して「殿樣は裸だ」といひ切らずに、大勢に押され、政黨的に、自分が心から納得しない思想を主張する傾向が世に相當强いと思ひます

人と人との間の信がほしい
柴田實

一、學問の內外を問はず人々の行動が今少しく公明であつてほしいと思ひます
一、學問をするこゝろに先立つて人と人との間の信がほしいと思ひます
一、私一個としてはあらゆる事物に對するシニカルな嘲笑的態度から脫却したいと願うてゐます
一、最後にかしこき大御代の榮にかけてまた失業することのない樣にと願つてゐます（江州神崎徹山麓にて）

信義を重んじ、公明に
長崎太郎

信義を重んじ、しかも公明果敢にして實行力に富み、眞に邦家の危急を救ふに足る靑年の出現に力を致さん哉。社會をして、學界をして、學園をして私利、私黨の醜き鬪爭場裡たらしむる事勿れ。

信念ある生活
和田篤憲

年頭に際し學生諸賢に、信念ある生活を營まれんことを祈る

常に變らずピアノでも
粂常清佐

拜復。難問題です。小生、新年だからと言つて別にそんな事は何も考へません。また小生どもが何を考へたつて、しかたがないではありませんか。そんな事を考へるひまがあつたら、ピアノでも練習します。

一九三二年の歷史よ正道に
平井孝雄

歷史は、小市民的知識階級を、完全に抹殺し了せたかの如くに見えた。然し、彼等を抹殺するとによつて、歷史は、何を得たか、エロテシズム、デカタニズム、ニヒリズム、ヒロイズム――彼等の前に投げられた陷穽の周圍を眩暈を感じつゝ滄浪として漫步する良心的インテリゲンチヤを、人類の流れに結びつけるために、一九三二年の歷史よ、正しき道を發見せよ！

世界の、人類の平和を望む
岩波茂雄

一　ガンヂーが釋放せられる事。
一　中華民國が新興統一の機運に一步を進むる事。
一　日本が各國と共に軍閥武斷の羈絆より脫して文治國となり、眞實に民國と親善關係を結ぶ事。
要するに世界に、人類に、平和と正義と幸福とが少しでも多く惠まれんため、陰慘なる東洋の天地が少しでも朗らかになる事を私は衷心より望みに望み、祈りに祈つて止まざるものである。

かゝる奴原は梟首にすべし
宇佐見兼丸

國民の大部分を犧牲にして、二人か三人だけが儲けるやうな社會を無くしたいと思ひます。國民の意思などは餘り勘定に入れないで、一人か二人の財閥の懷ろ勘定で政府がひつくり返されるやうな社會を、無くしたいと思ひます。愛國と忠孝の一手販賣みたやうな顔をしながら、實は金儲けのために、國と國民とを賣るやうな奴を撲殺したいと思ひます。ある時は憲政の神樣になり、あるときは袞龍の御袖にかくれ、御都合次第で蝙蝠みたいに變る人間は、三條河原で梟首にしたいと思ひます。自分の言ふことだけが正しくて、他は皆間違つて居ると罵詈讒謗しながら逃げまはる自瀆病患者は野蠻へ投げ込んでやりたいと思ひます。大京都？は幸ひ家の數より野蠻の數の方が多いから便利です（凸版は財部靜治敎授の回答です）

時が來る迄學生らしく
楠田敏郎

正直に言ふと、私はぼかんとして昭和六年を送り、昭和七年を迎へた、特別な「年頭の感」など言ふものは無い、が、世間に對して眼を放つならば、そこにはありあまる程の問題が轉つて居て、私などのやうな文學修業者にも、種々な「考へ方」を要求する、最も手近な一つをひらふなら、學生諸君が、現代の世相に、または世界に於ける日本の立場が、どうなつてゐるかなどに、殆んど無關心なる如くに靜かに勉强してゐる態度を大變好いと考へてゐる、愛國心などは見せびらかすものではない、愈々となつたとき、起ち上る用意は誰にもある筈だ、時が來るまでじつと學生らしくしてゐることだ

菓子
山城三郎

巨燵にかゞみ込んで、隣室の話に耳を澄してゐたわたしは思はず噴き出してしまつた。

わたしは二年振りで、生れた家である此の山寺へ歸つて來てゐるのである。そして、昨夜の汽車で着いて、ぐつすり眠り込んで、今のさき目を覺して、ぼんやり巨燵にあたつてゐると、隣座敷で、老いた父を相手の話なのである。

聲と話の內容とで、二年も旅に居たと言ふもの、客が誰であるかは直ぐに判つた。

客は二人――。一人は煎餠や駄菓子ばかりを製造してゐる永樂屋で、もう一人は蒸菓子專門の甘盛堂と言ふのである。

永樂屋は、小柄な、ごそ〳〵した男で、いつも法被一枚の穢いなりをして、始終忙がしさうにしてゐる實直な人柄である。

甘盛堂は、煎餠屋である永樂屋に對して、如何にも蒸菓子屋である自分を誇つてゐるやうな、一寸名人かたぎな、大きつぱな調子の男で、無駄話が好きで、いつも貧乏ばかりしてゐて夫婦喧嘩が盛んで、子供が大勢ある。

甘盛堂は鼻下にチョビ髭を蓄へてゐるが、それは、村の娘達ばかりでなく、初對面の人をさへ噴飯させるユーモラスなものである。

わたしは、隣室に居て、彼等がしほくちやで、頭がつる〳〵に禿げた坊主を相手に喋つてゐる光景を見ることが出來た。

話はかうなのだ。

此の土地のものは大體、お茶を飲んで、無駄話をしすぎる。それにお茶菓子が奢つてゐて、地主級になると二色三色の違つた菓子を出すのである。今日、此の不景氣な世の中で、三度の飯さへ食へぬものがあるのに、お茶菓子を食つてお茶飲み話に時間をつぶすのは實に以ての外である。と言ふわけで、村長が、今後一切茶菓子を用ひざること、若し用ひた場合には各組々で、隨意な罰金でもきめて置いて、それをいましめるのもよからうと言ふ布れを出したと言ふのである。

「そりやほんとかい？」

父は、幾分笑ひたさうな聲で聞いたものである。

「おらが組には、そんな布れはなかつたぞい」永樂屋の聲だつた。

「いや下の耕地にはたしかにさう言ふ回狀が行つたつちうこんだ。嬶の妹が來てさう言つて行つた」

甘盛堂はさう斷言して、不景氣には違ひないが、菓子を食ふなと言ふことになれば、自分達菓子屋は飯が食へなくなるではないか、そんな馬鹿な村長つてものがあるもんか、大體あの村長は胡麻すり野郞で、蒸菓子なんぞは買つたことがないもんだから、外の家で、うまい菓子を食つてゐるのが羨ましくてならんのだなぞと散々村長を罵つたものだ。そして「なあ永樂屋こいつは一番村長が家へ乘り込んで、一談判して來ずばだちかん、なあ和尚樣さうずら」と興奮し父が默つて居て、永樂屋が「まさか、そんなことはあるまいよ、いくら馬鹿村長だつてまさかそんな……」と言ふのを皆まで言はさず「お前は煎餠屋だもんだで、そんな安氣なことを吐いとれるんだ。蒸菓子は、なんだつて百姓には贅澤品だからな」と憤慨した。

わたしはそれを聞いて噴き出してしまつたのである。

如何に邊鄙な片田舍とは言へ、から言ふ布告は滑稽である。恐らく誰かゞ冗談を言つたんだらう。

が、又考へやうによつては、それはあり得ることかも知れない。女郞屋や藝者屋やカフエーに出入することを、放蕩兒の仕事と罵り、國定敎科書の第一頁から酒色を却けることを最高の道德として敎へてゐながら、營業としてのそれ等の存在をゆるし、人心をして酒と女なしでは、どうにも氣持の遣り場がないやうにさせる社會狀態を作り上げてゐる世の中だもの田舍の村長が菓子禁制の公布をしたとて不思議はあるまい。それに蒸菓子たるや、甘盛堂が認める通り百姓には贅澤品であり、わたしの寺に十何年住んでゐて、母の死後、勝手元一切のことをやつてゐる嬶の話によれば、此の頃の百姓家には沙糖氣は微塵もなくて、寺にやつて來て、駄菓子が出ると、菓子鉢一杯位はペロリと平げて行く程に不景氣になつたにかてをやである。

甘盛堂たちが話しに來た日から四五日すると、問題の村長がやつて來た。

實を言ふと、わたしは四五日前のあの話をすつかり忘れてゐたんだが、村長が、例の通り辛薬色の紋附を着て、木堂に似た顔に、これは又すごく黑い顎髯を生やして杖をついて入つて來ると、電光のやうに菓子の一件を思ひ出した。

此の老人は隨分長いこと村長をやつてゐる。そして年々歲々自家の財產を傾けて行くから、議員になつて一財產拵へたり、役人になつて肥つたりする人間ではないだらう。だから甘盛堂が胡麻すり野郞だと言ふのは當つてゐない。

然し、菓子の禁制を出すにしては、此の村長は、あんまり菓子を食ひすぎる。少くともわたしの寺に來る時は、實によく食ふので、それに村長だと言ふので父も成可く上等な菓子を出すことにしてあるんだが、わたしには此の村長は菓子を食ふがために寺にやつて來るかと思ふばかりによく食ふ。甘盛堂が、あの村長は蒸菓子を買つたことがないと言ふのは或は當つてゐるかも知れない。

わたしは、村長が來た日は、父は葬式に出て行つて留守だつたので、わたしが相手になつた。

わたしは、村長の瘦せた顔を見た時から御菓子のことばかり考へてゐた。失禮な話だけれども、不景氣のために、村一般は、此の話し好きの村長樣を座敷に請じ入れて菓子を食はすことが出來なくなり、上等な菓子を用ひ得る家は、此の村長の反對派になる金持であるために、彼村長は選擧干涉を兼ねて、ムシヤクシヤする腹をいやすために菓子禁制をやつたのかも知れない。

わたしの父は酒も煙草もやらぬかはり、大の甘黨で、奧の間の戶棚には、葬式に出す最中や、饅頭のほかに、色々な菓子のあることを、わたしは小さい時から知つてゐた。恐らく一週間に一度は必ずやつて來る村長もそれは知つてゐたらう。

わたしは、村長を巨燵に請じ入れてから、何を茶菓子に出すべきかばかりを考へてみたが、遂に熟柿を出さうと心に決めた。熟柿は、農家なら大抵の家にあつて、一寸も珍らしくないのである。

「今、何もないが、まあこれでもお上り下さい」

さう言つてわたしは村長の顔を見た。

村長はつまらなさうに顔を曇らせたやうにわたしには思へたが、彼は昂然として言つたのである。

「なに、今は此のやうな不景氣な時だでお茶菓子なんてもつたげないぞい」

そして、熟柿をむしや〳〵やりながら不景氣について語り、反對派の地主の惡口を言ひ、滿洲に出征してゐる將兵の艱苦を思へと慷慨した。

わたしは、だまつてそれを拜聽してゐたが、わたしの眼も、心の中心も、村長の黑々とした髭の上に赤く殘つてゐる熟柿の露にあつたのである。

「新築地」關西公演を見る
喜多洋

◇……新築地劇團がヴエ・キルションの「風の街」をもつて來ると聞いて僕は多大の期待をもつた、なぜなら、この芝居は、昨年十一月日本プロレタリア文化同盟の結成記念に左翼劇場と共同上演し、東都の大衆のみならず、玄人筋にも非常な好評だつたものだからだ

◇……勿論、今回の關西公演では裝置において、俳優においても東京公演に及ばないが、それでもなほ關西新興劇團の熱烈な助演もあつて、脚本のよさを十分發揮した。しかも大阪では、勞働者劵を待つ列が數町にわたつてつゞいて新しい時代の雰圍氣をいやが上にも高潮させてゐた點では、關西のどの都市の公演より成功したものと見てよからう

◇……この芝居は一九一八年の夏、ロシア革命の炎にあふられた石油の街バクー（風が强いので「風の街」といはれてゐる）に起つた廿六人のコッミザールの虐殺事件に材をとつたもので、社會民主々義者と帝國主義國の軍隊の攻勢にあひながら沈着にしかも勇敢に鬪ふプロレタリアの前衞を描き出し非常な成功を收めてゐるが、藝術的に完成されてゐるといふ點でもプロ劇壇近來の傑作と稱してよからう

◇……演出としては最初のシュプレッヒ・コールによる「生きた解說」がきわめて效果的に使はれてをり、大體において土方氏得意のキビ〳〵した手法で、ともすれば單調になり過ぎさうな脚本を救つてゐるが、贅をいへばトルコ唄歌ひのアシューグを無用に長くしやべらせたり、第一景事務所の場面がやゝ散漫な感を與へたことなどがあげられる、しかし第四景波止場、第五景石油槽の內部の場面等はなかなかよくまとまつてをり、殊に第五景の幕切れは非常な感動を觀衆に與へた

◇……俳優としては丸山のゴロヤンが最も光つてゐた、いかなる困難に當つても常に正しい判斷と同志の說得を忘れない典型的鬪士のこの役として陷り易いヒロイックな氣分をみじんも出さなかつたのは賞していゝ、島田のトウマニアン、寺田のワルタンも堂々たるものだ、蒲田のジヤンギールは損な役をあざやかにやつてのけた、浮田のケリム爺さんもプロレタリアらしいユーモアを漂はしていゝ、伊藤のアシューグは役不適だと思はれるが、それだけにその熱演を買はねばならない山本は關西では久方ぶりだが、彼女獨得の藝風をますます深めて行くやうだ。（一月十六日夜）寫眞は「風の街」京都公演廿日廿二日

「掻拂ひの一夜」を見て
淸水光

1

ある人ぼくの書く映畫論は、どうも肩が凝つていけない、といふ。お正月から堅苦しい議論も面白くない、といけないからあつさりした「掻拂ひの一夜」について――

アルベエル・プレジヤンが例の顔付きで、この映畫に出てくる。「巴里の屋根の下」で親しみ深い彼は今度はマドロスである。手風琴を肩にしてマストの上に「マドロスの唄」をうたふ。そして「ル・ミリオン」のアンナ・ベラが彼の戀人になつて出てくる。なにか、どうしても「巴里の屋根の下」を想ひ出させる映畫である。手風琴の音とプレジヤンの顔と聲が。

「巴里の屋根の下」は何といつてもトーキー藝術の最初の傑作である。あの平凡な、どこの街角にもころがつてゐる相な出來事をあれだけに映畫的に纏め上げたルネ・クレエルの監督手腕は並並でない。あの人情と心理の徵は全く映畫的に生かされてゐる。それは映畫によつて始めて表現された一つの新しい美である。平凡な現實が映畫藝術にまで昇華されて、いかに小さくとも美しい結晶を形ち作つてゐる

それは最早、平凡なことではなくなつてゐる。クレエルの映畫的な表現の素晴らしさであることを「掻拂ひの一夜」を見ながら、つくづく感じた。

この映畫もアメリカの在來のトーキーに比して傑作といへなくても佳作の內に數へらるべきものである。「私はトーキーにおいてダイアログを、それが音響的效果である限りにおいて使つてゐる。」とその監督カルミネ・ガロオネは云つてゐる。それでアメリカ凡作トーキーのやうに、聲と音が徒らにわれらの皷膜に反響するに止つてはゐない。音響の處理もなか〳〵巧である。しかしクレエルの技術には可成りの距りがある。

監督カルミネ・ガロオネは古くイタリア映畫全盛の時代からの老巧の人である。近くはコンラット・ファイトの陰慘な「六十八番目の花嫁」を作つてゐる。映畫的な技巧は、實に手堅いものである。しかもそのために拳鬪映畫の昂奮と、戰慄に適しないところもある。やゝ古めかしい映畫技巧である。そのことを風琴の音にクレエルを想ひ出しながら、しばしば感じた。

プレジヤンがマストの上で「マドロスの唄」をうたふ。この最初の場面においても、も一度この歌が唄はれる時にもガロオネは移動撮影を用ひてゐる。カメラがプレジヤンから移動して下に向つて海と空の水平線の遙かな遠望を眺めながらプレジヤンのマストから降りるのを追つてゐる。この時は、移動する畫面の流動美となだらかに流れる唄とが調和してゐる。しかし次に酒場でこの歌が唄はれる場面は、移動撮影の技巧の不充分さ、その制限を現してゐるやうにさへ思はれた。

この酒場の場面では、拳鬪に負けてしよんぼりしてゐるシヤルリイを慰めて、風琴を鳴らしながら、「マドロスの唄」を歌ふ。この時にカメラは橫に移動する。酒場にゐる、いろいろな人達を次から次に眺めながらカメラが動いて行く。その間もちろん唄が聽こえる、カメラは移動を續けて再び元のプレジヤンに戾つてくる。其をゆるやかな一つの移動によつて現してゐる。そして二度目に又同じ場面をカメラがやゝテンポを早めて移動するとき、人々は「マドロスの唄」の合唱に加つてゆく。

これによく似た場面が「巴里の屋根の下」にあつたのを想ひ出す街頭で唄はれる、あの主題歌がそれを聽く人々の合唱に移つて行く場面。この場合クレエルは移動撮影を行はずに普通のカット・バックを用ひた。唄つてゐるプレジヤンとその周圍にそれを聽く人々その人込みの中で、掏が行はれ、巖しいお巡りさんまで合唱に釣込まれる。唄ふ人と聽く人の二つを巧みに組み合せてカットからカットへのリズムと唄の調子とを巧に合せてゐる。この映畫のカットからカットへのリズムと音樂のリズムとを調和させる技巧は彼のより音樂的な「ル・ミリオン」において、一層進められ完成されてゐる。移動撮影もそれ自身のリズムをもつてゐる。そのカメラの動き方とその場面の中の動きと、畫面の對象の遠近の變化によつて、なだらかなリズムが生れる。しかし夫れは一つの流れの中の一つの連續をなしたリズムである。カットとカットの間の一種の飛躍のある、互に對立し反撥するものゝ間のリズムとは可成り異つてゐる。カットとカットのリズムは、より深く廣い範圍をもつてゐる。

酒場の「マドロスの唄」に於ける映畫のリズムは餘りにゆるやかな流動をなしてゐる。それで唄のリズムに比して畫面のリズムが單調に過ぎる。一人の唄から合唱への、移り行きの變化の表現が、そのために不充分に終つてゐる。それに唄の間中、映畫の動作が靜つてゐる。慰めの唄だけのために存してゐる「巴里の屋根の下」の其間に次への動作が行はれてゐるのと大いに異つてゐる、そのために場面全體が緩漫で時と間がのびて退屈になつてくる。

このやうなリズムのゆるやかさは、この映畫全體を貫いてゐる、個々のカットが、しばしば長きに過ぎてその中の動作と演技に重心を置き過ぎて、カットからカットへのリズムによる映畫的表現に缺けてゐる。

最初の拳鬪の場面にも、これに似た例がある。拳鬪のリンクの觀衆の喚聲を伴奏に、搖れ動く四圍の綱からその周圍を眺めながら次第に怒號する觀衆の間に入り込んで行く移動撮影も、面白い技巧ではあるが、リズムが餘りゆるやかで拳鬪の昂奮と戰慄に乏しい。

こう書いてくると、この映畫は甚だ退屈に聞ゆるがこれはクレエルに比較してのことであつてガロオネは隨所に巧みな手法を用ひてゐる。特に最後の拳鬪は、ガロオネの意圖によつて、フランスの名選手キュニイ自らが指導しただけのことはある。その他、最後の拳鬪の場面の叫騷から、劇場の拍手へと續けた又はプレジヤンの祝勝會のジヤズの音からその歸りを待つ家の笛の音へ續けた所謂「音のオバアラップ」に巧みな手法を用ひてゐる

×××

いつか話しが理窟になつた。肩が凝らぬ內にこの邊で止めよう。もし既に肩の凝つた方は、このののんびりした「掻拂ひの一夜」でも見て下さい。この映畫は「巴里の屋根の下」の「反響」のやうな、あつさりした愉快な映畫であります。

正月のあとさき
早瀬讓

青松葉土間に散れるはこの家の除夜のしじまを更らに深くす

×

提灯を待つ子の息の白々に夜の目け寒むく冷に渡るかも

×

乙宮の齋場かしこし老杉の秀つ枝に下る除夜の星くづ

×

ざんげあとの心の洞に御手洗の筧の音は闇にかよひ來

×

振舞はれて醉ひて言祝申しつゝひとかど吾れはよき年賀客

×

遊びごと何も出來ねば正月の二日の雪にねて終ひたり

×

語り居て金の話となりにけり正月二日ほがらかならぬ

×

相つげる緣者の破產きく程に芽出度さ加減のうすき正月

×

借財のかぎりをつくし倒れたる家の屋號の殘る田畑

×

ふた親の冬ごもりますこの家の庇深々と冬の陽はあり

×

家の棟を吹きこす風にともすればまぎれとらるゝ父母のね息の

×

ふと醒めていびき揃はぬたらちねの淺きねむりは生きの身に沁む

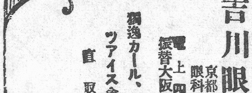
×

ぶゆらと生れてよどめる陽のなかに瞳おち行く寒椿の花

×

漸くに垂る樋ゆ雫く大霜の軒の日射の茜匂へる

そのや　寺町　確正札の店　そのや呉服店　京都寺町御池南入　電話上二三九番


眼鏡　正確　專門　廉價
京都大學病院眼科　府立醫科大學眼科　御指定
吉川眼鏡店
京都大學病院眼科小兒科門前　電上四九一一番　振替大阪三八七二八
獨逸カール、ツァイス會社　直取引

小山齒科醫院
東京齒科醫學士　小山正光
市電百萬遍西二北入　電話上五八二五番

靴！靴！靴！
●代表的に安い　●代表的に堅い
各種の靴を揃へて居ます。
京大學友會共濟部指定
村上新三郎商店　本店　新町通り鞍馬口上る　電西三八五九番　支店　吉田近衛町東一條下ル　電上一三八一番

皮梅科　尿器科
京都市新町佛光寺下る
醫學博士　向井利一
電話下七三八五番

ブランシツク製　メロトン・ダンス・レコード
只今入荷致しました
定價二圓三十錢　今月中特價一圓八十錢
氣持よい試聽室が皆樣をお待ち致して居ります
(music echo)
コダマ
京都・河原町三條下ル

皮梅科　尿器科
京都市河原町三條上ル西側
醫學博士　竹中敏
電話上(3)四四三五番